

関 係 各 位

愛 知 県 農 業 総 合 試 験 場 長
(公 印 省 略)

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て (送 付)

こ の こ と に つ い て 、 下 記 の と お り 発 表 し ま し た の で 、 参 考 に し て く だ さ い 。

記
令 和 4 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 1 号 (4 月)

担 当 環 境 基 盤 研 究 部 病 害 虫 防 除 室
電 話 0561-62-0085
内 線 471
フ ァ ッ ク ス 0561-63-7820

令 和 4 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 1 号 (4 月)

令 和 4 年 4 月 4 日
愛 知 県

普 通 作 物

・ 予 報 内 容

作 物 名	病 害 虫 名	発 生 量 (発 生 時 期)	主 な 発 生 地 域	予 報 の 根 拠	予 報 へ の 影 響
イ ネ	い も ち 病 (苗 い も ち)	平 年 並	県 全 域	前 年 の 穂 い も ち の 発 生 量 は 平 年 並	±
ム ギ	う どん こ 病	や や 多 い	県 全 域	前 年 の 発 生 量 は 多 い 3 月 下 旬 の 発 生 量 は 平 年 並 4 月 の 日 照 時 間 は ほ ぼ 平 年 並	+ ± ±
	赤 さ び 病	平 年 並	県 全 域	前 年 の 発 生 量 は や や 少 な い 3 月 下 旬 の 発 生 量 は 平 年 並 4 月 の 降 水 量 は ほ ぼ 平 年 並 4 月 の 気 温 は 高 い	- ± ± +
	赤 か び 病	平 年 並	県 全 域	4 月 の 降 水 量 は ほ ぼ 平 年 並	±

・ 防 除 対 策

[ム ギ ・ う どん こ 病]

前 年 の ム ギ 類 う どん こ 病 の 発 生 量 は 、 過 去 10 年 間 と 比 較 し て 1 番 多 い 状 況 で し た 。
そ の た め 、 一 次 伝 染 源 と な る 越 年 し た 病 菌 の 量 が 多 い と 考 え ら れ ま す 。 ほ 場 で の 発 生 状
況 に 注 意 し 、 発 生 を 確 認 し た ら ワ ー ク ア ッ プ フ ロ ア ブ ル な ど で 防 除 し ま し ょ う 。 な お 、
防 除 の 際 は 、 ム ギ 類 赤 か び 病 や コ ム ギ 赤 さ び 病 の 防 除 を 考 慮 し て 薬 剤 を 選 定 し ま し ょ う 。

・留意事項

2月1日～3月31日の間に、コムギ赤さび病の発生に好適な気象（日平均気温12℃以上かつ降雨のあった日）が5日記録されました。これは多発した2015年、2016年と同様の状況です。今作も多発する可能性があるため、今後の発生状況に注意しましょう。

ムギ類赤かび病感染予防の防除適期は、開花始期から開花期です。天候の推移に留意し、生育状況に応じて適宜防除を進めましょう。詳細は、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参考にしてください。

越冬世代のヒメトビウンカにおけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は、県平均で4.1%（前年2.1%）でしたが、一部、保毒虫率が経済的被害水準である5%以上の地域がありました。生育初期のイネ縞葉枯ウイルス感染を防ぐため、移植栽培では育苗箱施薬、不耕起V溝直播栽培では殺虫剤の種子塗抹でヒメトビウンカを防除しましょう。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）やイネ苗立枯細菌病は、出芽期以降の極端な高温や低温によって発生が助長されます。育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう（例：60℃、10分）。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下だと効果が劣るので注意しましょう。

スクミリンゴガイは水温15℃以上で活動を開始し、田植え後約3週間までの稚苗を食害します。防除対策等詳細は、本日発表の「スクミリンゴガイ情報第1号（水稻）」を参考にしてください。また、3月31日発表の「スクミリンゴガイ防除実証試験成果の紹介（水稻）」も併せて参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	越年発病葉率は高い 4月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
ナシ	赤星病	やや多い (早い)	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量はほぼ平年並 冬孢子層の成熟は早い	＋ ±
	黒星病	やや多い	県全域	前年の発生量は多い 4月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	前年秋期の発生量は平年並 4月の降水量はほぼ平年並	± ±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	前年夏の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫量は平年並 前年秋期の予察灯への誘殺数は多い	± ＋

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

3月18日発表の「カンキツそうか病情報第1号」を参考に防除しましょう。

[ナシ・赤星病]

ネクスターフロアブルやスコア顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

ネクスターフロアブルやスコア顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ブドウ・黒とう病]

越冬伝染源である棚に残った巻きひげは見つけ次第、園外へ持ち出して処分しましょう。キノンドーフロアブルやジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」を参照してください。

・留意事項

名古屋地方気象台3月31日発表の1か月予報によれば気温が高いと予想されています。ウンシュウミカンのほ場におけるミカンハダニの発生状況に注意しましょう。

ナシヒメシクタイ越冬世代の成虫がフェロモントラップに誘殺され始めています。成虫はモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期を逃さないように防除しましょう。

モモのせん孔細菌病対策として、春型枝病斑は伝染源になるので見つけ次第除去しましょう。詳細は「モモせん孔細菌病に対する豊橋式春型枝病斑早期切除技術」を参照してください。

(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/320268.pdf>)

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない	—
	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	すすかび病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間はほぼ平年並	— ±
	ハダニ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±

キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間はほぼ平年並	— ±
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロアザミウマ	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない	—
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない	—

・留意事項

キャベツでは、春～初夏はコナガが発生しやすい時期です。収穫残さは本種の発生源になるので、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。また、本種は薬剤抵抗性の発達が早いため、ローテーション防除を心がけましょう。

施設野菜では、灰色かび病が発生しやすい時期です。過剰なかん水は避け、換気を図るなど施設内が多湿にならないよう管理しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生量はやや少ない状況ですが、多発しているほ場もあります。多発すると防除が困難になるので、早めに防除しましょう。また、アザミウマ類の発生が多いほ場があります。例年、発生量が増加する時期です。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

トマトでは、3月下旬のコナジラミ類の発生量が多い状況です。気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミやトマト黄化病

（TOCV）を媒介するコナジラミ類が増殖しやすくなります。媒介虫の防除を徹底し、発生を防ぎましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平 年 並	平年値を中心にして 40%の度数に入る幅
	やや多い	平年並の外側 20%の度数に入る幅
	やや少ない	同上
	多 多 い	上記三者の外側 10%の度数に入る幅
	少 少 い	同上
発生時期	平 年 並	平年値を中心にして前後 2 日以内
	やや早い	平年値より 3～5 日早い
	やや遅い	平年値より 3～5 日遅い
	早 多 い	平年値より 6 日以上早い
	遅 多 い	平年値より 6 日以上遅い

注) 平年値＝原則として直近 10 年間の平均値とする。

フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>)を参照してください。

参考

東海地方の 1 か月予報 (名古屋地方気象台 3 月 31 日発表)

〈予想される向こう 1 か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1 週目は、平年並の確率 50%です。2 週目は、高い確率 50%です。3～4 週目は、高い確率ともに 50%です。

〈向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：10% 平年並：40% 高 い：50%

〔降 水 量〕 少ない：40% 平年並：30% 多 い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多 い：40%